

News Letter

事務局よりのお知らせ

形成外科手術手技研究会
理事長 鈴木茂彦

目次

- ・ 事務局よりのお知らせ
- ・ 第14回形成外科手術手技研究会印象記およびプログラム
- ・ 最優秀演題賞受賞抄録
- ・ 第15回研究会のお知らせ

第14回形成外科手術手技研究会が、平成21年2月14日(土)大阪千里で開催されました。多くの会員の皆様にご出席いただき、盛会裏に終了致しました。シンポジウムを含め50題を超える演題発表による活発な質疑応答が行われ、趣向を凝らした特別講演も好評で、このような実り多い研究会を主催していただきました大阪大学細川互会長ならびに教室の先生方、関係者の方々、そしてご出席、ご発表いただきました方々に心より御礼申し上げます。

本研究会は年々会員数、出席数、発表演題数が増加傾向にあり、新しい手術手技の発表の場ならびに伝統的手術手技の伝承の場として非常に重要であると考えられることから、近い将来「学会」に移行してはどうかという意見がございます。ただし、若手医師が気軽に新しいアイデアを発表でき、気楽に様々な情報交換ができる「研究会」的雰囲気は残す必要があると思います。今後、会員の皆様のご意見を伺いながら検討してまいりたいと存じますので、引き続き本会の運営、発展にご協力賜りますようお願い申し上げます。

さて、平成20年度の理事会（平成21年2月14日開催）において、以下のことが決定されましたのでお知らせいたします。

1. 次期研究会は長崎大学平野明喜会長の下、平成22年2月6日(土)長崎大学記念講堂にて開催予定。
2. 次々期研究会は大阪医科大学 上田晃一会長の下開催予定。
3. 名誉会員に森口隆彦先生、秦 維郎先生、野崎幹弘先生、中山凱夫先生が推挙され承認された。
4. 小林誠一郎理事長が3年の任期を満了、新理事長に鈴木茂彦副理事長が選任された。
5. 新副理事長に大阪大学の細川互理事が推薦され選任された。
6. 新理事として以下の4名の先生を推薦することが承認された。東京医科歯科大学岡崎睦先生、千葉大学佐藤兼重先生、関西医科大学楠本健司先生、筑波大学関堂充先生。
7. 本会の名称を「研究会」から「学会」等に変更するのがよいのではとの提案があり、今後の検討課題となった。

第14回形成外科手術手技研究会 印象記

大阪大学形成外科

細川互

形成外科手術手技に最もふさわしいであろう「匠とアート」というテーマのもとに第14回の研究会を開催致しました。内視鏡手術手技に対象を絞っていた時代からは見違えるほどの盛会となり、お陰さまで今回の参加者数は過去最多を更新したようです。

演題募集でも苦労はなく、締め切り延長をせずとも一般演題の応募は46に達しました。ちなみに一般演題から選ぶ優秀演題賞は各座長から推薦された演題の中から学会事務局が選考するという方式を取りましたが、優秀演題賞のご発表に勝るとも劣らぬすばらしい演題が数多く含まれ、選考に苦慮しました。この充実ぶりからもう「研究会」の域は超えているように感じられた次第です（実際、理事会では「研究会」から「学会」への移

行を検討することになりました)。

形成外科と同じく造形の美を求める氷彫刻界の達人・清水三男先生にお願いした特別講演ではその場で氷彫刻の実演もして頂き大変好評でした。四角い氷の中から「カジキ」を彫り出す実演では全く無駄のない動作に驚かされました。また、前日から作成して頂き会場入り口を飾った「鳳凰」も実に立派で注目を集めました。乳房再建のランチョンセミナー、下肢静脈瘤のシンポジウムもそれぞれに参加者のご期待に副えたのではないかと自負しております。

最後に、お忙しい中をご参加下さいました研究会理事始め会員の皆様方、会の運営にご協力下さいました各企業と大阪大学同門会員及び医局員に厚く御礼申し上げます。

第 14 回手術手技研究会プログラム

平成 21 年 2 月 14 日 (於千里阪急ホテル)

1. 皮弁、植皮 座長 : 梶川 明義 (福島県立医科大学)

- 01 乳輪乳頭温存皮下乳腺摘出後の二期的再建 ～乳輪乳頭下方移動の工夫～
岩手医科大学 形成外科 細谷 優子
- 02 巨大乳腺線維腺腫摘出に際し Tissue expander を使用した 1 例
京都大学 形成外科 新垣 香太
- 03 脊髄髄膜瘤の皮膚再建の 2 例
徳島大学病院 形成外科 高久 暢
- 04 小皮膚潰瘍に対する局所麻酔で可能なプロペラ皮弁法
会津中央病院 形成外科 石井 暢明
- 05 頭皮分層採皮創におけるハイドロジェル創傷被覆材の有用性について
獨協医科大学 形成外科 水口 敬
- 06 全層植皮による造臈術の一工夫
大阪医科大学 形成外科 中井 國博
- 07 並行する 2 つの癒痕拘縮に対する VN 形成術
公立豊岡病院 形成外科 松浦 喜貴

2. 手術法、その他 座長 : 田中 克己 (長崎大学)

- 08 形成外科領域における皮下ドレーン留置に関する一考察
慶應義塾大学 形成外科 緒方 寿夫
- 09 ” Leaf Incision Technique ” — 二期的手術における創縁の取扱いに関する一工夫
慶應義塾大学 形成外科 酒井 成貴
- 10 われわれの行っている表皮除去法 : K-style denude technique
福島県立医科大学 形成外科 梶川 明義
- 11 顔面・頸部リンパ管腫に対する硬化療法と吸引術の併用療法
聖マリア病院 形成外科 三川 信之
- 12 AVM に対する硬化療法の有効性
東北大学 形成外科 牛尾 茂子
- 13 治療に難渋した Multiple rheumatoid bursal cyst の一例
順天堂大学 医学部 形成外科 林 礼人
- 14 炭酸ガスレーザーによる黒子治療において深く削らずに色の再発を抑える試み

豊見城中央病院 形成外科 顎顔面外科 美容外科 峯 龍太郎

3. 再建 座長 : 多久嶋 亮彦 (杏林大学)

- 15 Pull-through 法による舌、口腔底癌切除、再建術式
沖縄県立中部病院 形成外科 石田 有宏
- 16 音声再建における五角形型逆流防止弁の有用性
獨協医科大学 形成外科 福田 憲翁
- 17 顔面神経再建に対する口腔内アプローチ吻合法
東京大学 形成外科 美容外科 成島 三長
- 18 涙小管移行および結膜吻合による涙道再建術を行った脂腺上皮腫の 1 例
—われわれが用いた術式とその工夫—
大阪医科大学 形成外科 前田 尚吾
- 19 臍周囲の皮膚穿通枝を温存した前鞘付双茎腹直筋弁による腹壁癒痕ヘルニアの治療法
久留米大学医学部 形成外科 顎顔面外科 守永 圭吾
- 20 両側陰部大腿双葉皮弁を用いた外陰部再建
慶應義塾大学 形成外科 二宮 瑠加
- 21 下肢切断端に対する組織移植を用いた再建
長崎大学医学部 形成外科 田中 克己

4. マイクロ 座長 : 橋本 一郎 (徳島大学)

- 22 顔面片側萎縮症に対する分葉型血管柄付脂肪筋膜弁移植による Buccal fat pad と皮下脂肪の同時再建
福岡大学医学部 形成外科学 大山 拓人
- 23 癒痕が目立たない前腕皮弁採取法 : Split Thickness Skin Flap Technique
福島県立医科大学 形成外科 梶川 明義
- 24 フィルムドレッシング材を用いた遊離皮弁による乳房再建部の創保護と血行モニタリングについて
横浜市立大学附属市民総合医療センター再建外科特定機能形態再建 渡邊 荘子
- 25 指再接着術後モニターとしてのパルスオキシメーターの有用性
長崎大学 形成外科 矢野 浩規
- 26 前外側大腿皮弁術前超音波検査の有用性 第 2 報 —術中所見との比較—
静岡県立静岡がんセンター 生理検査科 米山 昌司
- 27 顕微鏡下内胸動静脈剥離の有用性
名古屋大学 形成外科 八木 俊路朗

- 28 微小血管吻合時に縫合糸が術野に張り付かない工夫
 沖縄県立中部病院 形成外科 今泉 督
- 29 穿通枝皮弁を習得するために ～ラットでの簡単な練習法について～
 静岡県立静岡がんセンター 形成外科 茅野 修史

ランチョンセミナー 司会 : 上田 和毅 (福島県立医科大学)
 「乳房再建の匠とアート」
 大阪大学 美容医療学 教授 矢野 健二
 共催 : 常盤薬品工業株式会社

特別講演と実演 司会 : 細川 互 (大阪大学)
 水彫刻家 清水 三男

シンポジウム 一下肢静脈瘤治療の現況と将来—
 司会 : 横尾 和久 (愛知医科大学)

- S1 当科における下肢静脈瘤に対する治療
 一下肢静脈奇形に対する硬化療法の経験から—
 国立病院機構 姫路医療センター 形成外科 野村 正
- S2 兵庫医大皮膚科における下肢静脈瘤治療の変遷
 兵庫医科大学 皮膚科学教室 伊藤 孝明
- S3 下肢静脈瘤に対する硬化療法の有用性東海大学
 心臓血管外科 折井 正博
- S4 硬化療法を可視化する -visualized sclerotherapy-
 大阪大学 形成外科 菊池 守
- S5 伏在静脈型静脈瘤の治療選択 (静脈結紮術とストリッピング術)
 住友病院 心臓血管外科 坂田 雅宏
- S6 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療の変遷と現況
 お茶の水血管外科クリニック 広川 雅之

5. 骨折、骨延長 座長 : 大場 創介 (大阪医科大学)
- 30 生体吸収性骨接合プレートを用いた頬骨骨折整復固定術における小工夫
 医療法人彩樹守口敬任会病院 形成外科 藤森 靖
- 31 頬骨骨折におけるキルシュナー鋼線の有用性 ～頬骨弓に対する力学的補助として～
 帝京大学 形成・口腔顎顔面外科 天方 将人
- 32 経結膜切開法の有用性と問題点について
 金沢医科大学 形成外科 山下 昌信

- 33 陳旧性眼窩底骨折手術に眼窩下縁骨切りが有効であった一例
 池友会新小文字病院 形成外科 木股 完仁
- 34 歯槽骨延長器と骨移植術を組み合わせた多段階的骨量付加骨延長術 (Multi-stage Bone Charged Distraction Osteogenesis) による歯槽骨・下顎骨再建
 東京警察病院 形成外科 美容外科 渡辺 頼勝
- 35 下顎骨関節突起骨折の内固定型骨延長器を用いた動的牽引療法の実際
 東京警察病院 形成外科 美容外科 渡辺 頼勝
- 36 骨延長器を用いた高度短鼻に対する新しい治療法
 久留米大学 形成外科 顎顔面外科 力丸 英明
- 37 経結膜アプローチと耳介軟骨移植を用いた小児・若年者の眼窩底単独骨折の治療経験
 埼玉医科大学総合医療センター 形成外科 美容外科 百澤 明

6. 先天異常 座長 : 寺師 浩人 (神戸大学)

38 小耳症手術における肋軟骨フレーム作成時の吸収糸および瞬間接着剤による固定
 兵庫医科大学 形成外科 西本 聡

- 39 限られた肋軟骨を用いた再建耳弁挙上用軟骨の有効利用
 神奈川県立こども医療センター 形成外科 小林 眞司
- 40 足趾合趾症の新たな手術手技 ～両側矩形皮弁の試み～
 東京大学医学部 形成外科 美容外科 荒木 淳
- 41 足底部 pincer flap (仮称) を使用した合趾症例
 関西医科大学滝井病院 形成外科 鈴木 健司
- 42 胸腔鏡下に左側からアプローチした Nuss 法の経験
 秋田赤十字病院 形成外科 小竹 理子

7. 唇裂、口蓋裂 座長 : 土佐 泰祥 (昭和大学)
- 43 横顔面裂に伴った軟口蓋の両外側斜裂の手術経験 (症例報告)
 慶應大学 形成外科学教室 内川 裕美子
- 44 粘膜側からの切開による痕跡唇裂の修正 (Cho's method の経験)
 岩手医科大学 形成外科 本多 孝之
- 45 口腔前庭皮下茎皮弁による上唇結節の再建
 大阪医科大学 形成外科 大槻 祐喜
- 46 口唇裂外鼻変形に対する open rhinoplasty 術後固定法の工夫
 京都大学医学研究科 形成外科学 中村 陽子

優秀発表演題抄録

癒痕が目立たない前腕皮弁採取法 : Split Thickness Skin Flap Technique

福島県立医科大学 形成外科

○ 梶川 明義、上田 和毅

遊離前腕皮弁は、血管茎が長く、薄い皮弁であり、最も有用な皮弁の 1 つとして広く普及している。しかし本皮弁の最大の欠点は、採取部が露出部であるため、植皮された癒痕が目立つということである。そこでわれわれは、この採取部癒痕を目立たなくする皮弁の採取法を考案したので、紹介する。

本法では、通常通り前腕橈側に遊離前腕皮弁を作図した後、まずデルマトームを用いて、尺側縁から皮弁の形に分層皮膚を挙上する。これを Split Thickness Skin Flap (STSF) と呼ぶ。橈側縁に達したところで挙上を止め、STSF の橈側縁をつけたまま採取部に残し、その深部の皮膚を前腕皮弁として採取する。皮弁採取後、挙上しておいた STSF を元の位置に戻し、通常の植皮術に準じて、第 11 回の本研究会で報告した One Side Mattress Suture (OSMS) 法を用いて tie-over 固定を行う。

STSF 法を用いることで、採取部のカラーマッチは良く、最も目立つ橈側縁の癒痕がなくなる。さらに OSMS 法を併用することで、縫合痕も目立たない。表皮除去された遊離前腕皮弁は、舌・口腔壁などの再建に用いたが、翌日から出血は少量で、約 2 週間で問題なく上皮化した。STSF 法や OSMS 法を用いることで、遊離前腕皮弁の最大の欠点が緩和されると考える。

歯槽骨延長器と骨移植術を組み合わせた多段階的骨量付加骨延長術

(Multi-stage Bone Charged Distraction Osteogenesis)による歯槽骨・下顎骨再建

¹⁾ 東京警察病院 形成外科 美容外科、²⁾ 東京女子医科大学 歯科口腔外科

○ 渡辺 頼勝¹⁾、佐々木 亮²⁾、秋月 種高¹⁾、小澤 剛¹⁾、阿川 かおり¹⁾、吉村 圭¹⁾、
太田 智之¹⁾

【目的】従来、腫瘍切除や外傷後の歯槽骨・下顎骨欠損に対しては小範囲であれば義歯使用が一般的であったが、最近では骨延長法と人工歯根の組み合わせにより、自然な咬合および審美の再建が可能となっている。しかし、比較的広範囲な歯槽骨・下顎骨の部分欠損の治療には、義歯使用が選択されることが多い。

今回、骨延長法単独による治療が困難でありかつ、遊離骨皮弁移植術の適応に迷うような比較的広範囲な下顎骨部分欠損症例に対し、歯槽骨延長器と骨移植術を組み合わせた多段階的骨量付加骨延長術(Multi-stage Bone Charged Distraction Osteogenesis)により比較的良好的な歯槽骨・下顎骨再建が得られたため報告する。

【症例】26歳、女性。悪性腫瘍切除後の下顎骨4-4間の歯槽骨・下顎骨欠損に対し、遊離骨皮弁以外による再建を希望し紹介受診された。初診時、下顎骨4-4間は下顎骨下縁1cm未満を残して分節切除されており、下顎全体が舌側傾斜し咬合は崩れ、また下口唇からオトガイにかけての形態も崩れ咬合・審美上の両面から再建が必要とされた。術前実体骨モデルから、必要とされる骨延長距離は20mmあり、元々残されていた骨量が非常に少ないことから、多段階的骨量付加骨延長術を計画した。

第一次手術では、骨延長部分の軟部組織の拡張を第一目的として、LEAD型歯槽骨延長器2個をtissue expander代わりに使用した。第二次手術では、骨延長された下顎骨の唇側にできたスペースに海綿骨を含む腸骨皮質骨を移植した。第三次手術以降は、増量された下顎骨を骨延長器(Modus社V1/V2)を用いて骨延長を行った。

【結果】安定した下顎骨が再建され、煩わしい義歯装着から開放され、咬合上も審美上も良好的な再建が得られている。

【結論】本法は、歯槽骨・下顎骨の骨延長に関して、従来の適応限界を超える方法である。すなわち、骨延長法の持つ軟部組織の拡張作用により生じたスペースに、骨移植することで延長骨の骨量を増やし、さらに骨延長することで十分な骨延長が可能となる。

第15回形成外科手術手技研究会のお知らせ

日時 平成22年2月6日(土)

場所 長崎大学医学部記念講堂・良順会館

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4

TEL: 095-848-5484 (良順会館)

TEL: 095-819-7327 (形成外科医局)

FAX: 095-819-7330 (形成外科医局)

この度は第15回という節目の形成外科手術手技研究会を私ども長崎大学医学部形成外科教室が主催させていただくことになり、大変光栄に存じております。そもそも形成外科医は細部を極める職人のごとき性状を有しておりますが、この研究会はまさしく日常の診療に直ぐに役立つようなアイデアや細やかな工夫を思いう存分語り合える場であります。現在、形成外科内においてもそれぞれの専門分野が分かれています。ここで討議される形成外科手技に関しては形成外科医の普遍的な興味の対象であるのではないかと思います。

今回の会場である長崎大学医学部は浦上地区という長崎市の北部に位置し、原爆の爆心地からも近く、原爆資料館から徒歩で5分程度の距離です。このため、前身の長崎医科大学は原爆によって壊滅的な被害を受けましたが、同じ場所に長崎大学医学部として復興し、現在に至っております。長崎大学医学部は一昨年に創立150周年を迎えました。それを記念して講堂を建築し、開学の祖であるポンペの第1弟子であり初代陸軍軍医総監ともなった松本良順に因んで良順会館と命名しました。今回の研究会は長崎大学医学部記念講堂と良順会館で開催する予定です。

長崎では2月の旧正月からランタンフェスティバルが開かれます。2010年は2月14日にフェスティバルが開始されますが、これに先だって市中心部は華やかな中国式の飾りが一杯取り付けられていることと思います。色とりどりのランタンと共に皆様のご来崎を歓迎致します。

第15回形成外科手術手技研究会

会長 平野 明喜